

この七月、八月の二ヶ月の間に中東の情勢の流れをかえる大きな変化が起こった。それは、第一にヨルダンの西岸の放棄であり、第二には、ガルフ戦争の停戦である。このふたつの出来事は、中東情勢をさらに複雑なものにし、パレスチナ革命をはじめとする反帝・反シオニズム・民族解放勢力は、その前途を切り開く闘いが困難な局面に直面することになつていている。

パレスチナ人民蜂起は九月九日で

一〇カ月目に突入した。ヨルダンの基礎となる人民委員会の解体、一掃西岸の放棄は一面、蜂起の政治的成果として、PLOがパレスチナ人民スチナ革命はヨルダンの決定への対応をめぐって、対立が拡大することのないものにした。しかし、それは同時にPLOが行政の一切の責任を負うことであり、ヨルダンの行政であることにおいて許されていたものがシオニストによって拒否されることを意味している。実際、ヨルダンの協調関係が解体し、国民的和解の決定以降、シオニストは蜂起の弾圧を強化し、パレスチナ独立国家の

中東情勢の変動とパレスチナ革命

一九八八年九月一〇日

月刊
中東レポート

第38号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J. R. A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

目次

中東情勢の変動とパレスチナ革命	1
ヨルダンの西岸放棄とパレスチナ独立国家(資料①)	12
蜂起民族統一指導部アピール(資料②)	15
レバノン大統領選挙(資料③)	19
重要日誌(1988年7月11日~8月10日)	20
編集後記	22

一 ヨルダンの西岸放棄とパレスチナ革命
ヨルダンのフセイン国王は、七月三一日、西岸開発五ヵ年計画の破棄、

が記者会見を行い、亡命政府に対する立場を再検討していると発言した。しかし、パレスチナ民族救済戦線の各組織は亡命政府に対して反対の立場を表明した。

八月一日、PLOは、モハメド・アッバース執行委員長を団長とする代表団をヨルダンにおくり、初めてのヨルダン政府との話し合いをもっている。PLOにとっては、PLO側での対応措置がとれるまでヨルダンに一挙的な西岸の切り離しをさせないことが目的としてあった。しかし、アラブアト議長が、この時期にリビアに行き、ヨルダンに行こうとしたなかつたように、ヨルダンとの間に一線を画そうとしていた。現実問題として、ヨルダンが西岸の切り離しを一挙的に行えば、体制の整っていないPLOはどうすることもできず、西岸の住民の生活を困難にさせることになり、何よりもPLOの無力を示すことになる。それゆえにヨルダンが一挙的に切り離しを行わないよう働きかけることが必要であった。

この話し合いの結果、西岸住民の生命線であるヨルダン側の西岸と東岸を結ぶ橋を閉じないこと、二年間

の限定づけたが西岸住民へのバスポートの発給を行うこと、西岸からの輸出産品にヨルダンのオリジンを与えること、教育機関の監督、出生、死亡、婚姻証明を発行することなど、の継続を確認している。

ヨルダン側はこの会談で、PLO が国際的に受け入れられるよう、パレスチナ独立国家の綱領をつくることを要求している。これは、PLO に、ヨルダンが受け入れることができる綱領を要求していることは、明確である。この代表団が統いて訪問したエジプトも同様に、PLO に対して、エジプトが受け入れられるようなパレスチナ独立国家の綱領を要求した。

パレスチナ側がヨルダンの決定に対する統一した立場を打ち出しえていなかった状況のまま、アラブ反動がパレスチナ自身の決定に対する介入を行っていた。

こうした状況のなかで、八月一日、ファタハの保安の責任者であるアブ・イヤドが、雑誌とのインタビューで、PLO は、亡命政府ではなく、臨時政府について検討していると発言し、イスラエルとパレスチナの相互承認を明確にし、そのためのパレスチナ民族憲章の修正にまで、

言及した。またアラファト議長のアドバイザーとして活動しているバッサム・アブシャリフは、繰り返し亡命政府の樹立とイスラエルの承認について、言及している。

しかし、パレスチナ革命は、このヨルダンの決定に対する態度の決定が分裂を導く状態になつていて、第一には、PLOに結集している勢力とパレスチナ民族救済戦線の対立である。PLOに結集している勢力は基本的に亡命政府、ないしは臨時政府の樹立と四七年の国連決議にそったパレスチナ独立国家の建設に合意している。旧民主連合でいえばDFL P、パレスチナ共産党はパレスチナ人民蜂起の最初の時点から亡命政府の樹立を主張しており、唯一PFL Pが亡命政権に反対していた。そのPFL Pが亡命政府に対する立場を変えたことによって、PLOの内部の勢力は合意したものになつていている。

しかし、救済戦線に結集している各派は、これらに対して反対の立場をとっている。PFL P総司令部派のアハマド・ジブリル書記長は、八月三日に亡命政府の樹立にアラファトが進むなら、PNCには参加しない、アラファトはPLOの憲章に

逆反している。亡命政府を宣言するPLOであることと宣言するPLOが、別個のPNCを召集し、我々がPLOであることを宣言すると声明している。これにはファタハ革命評議会派（アブ・ニダル）が同様の立場に立っている。彼らの共通している立場は、全土解放の立場を維持し、国際和平會議を含む、いつさいの話し合いに反対していることである。亡命政府の樹立がイスラエルの承認になること、また、PLOがそれによって、解放組織としての性格を失い、武装闘争を放棄することになることを恐れている。彼らをシリアが後押ししている。亡命政府の宣言は、この部分との決定的な分裂となる。また、被占領地では、ハマス（イスラム抵抗運動）がこの傾向を代表している。

第二には、PLO内部での相違である。PLO内部ではヨルダンの決定的評価をめぐって、三つの見解に分かれているといわれている。一つの見解は、蜂起の政治的成果としてヨルダンの決定があるが、ヨルダン自身がその野望を捨てたのではないこと、ヨルダンはPLOが失敗することを待つており、PLOがヨルダンとの連合でしか解決できないこと

下院の解散に引き続いて、シオニスルダン川西岸の主権を放棄し、主権はパレスチナ人民に属していると宣言した。フセインの説明によれば、これは、アルジェリア・サミットの決定に基づいたものであり、イスラエルにヨルダン・オプションがないことを示すことがある。

PLOにとつては、このフセイン国王の決定はまったく寝耳に水であった。PLOは、七月二八日の西岸五カ年計画の破棄、西岸の代表を含むヨルダンの下院の解散には即座に支持を表明したが、七月三一日のフセインの宣言に対しては、即座に対応することはできなかつた。PLOは、フセイン国王がそこまでやることは考えていなかつたし、それを受け入れる準備がなかつた。

シリアは公式的には歓迎を表明したが、これはヨルダンの対シオニスト戦線からの公式の離脱であり、対シオニスト対峙でシリアが孤立することになるから、この決定について快く思つていなかつた。

シオニストは、シャミル首相がこのヨルダンの決定を歓迎した。これは、ヨルダンが西岸の主権を放棄すれば、西岸の主権者はいないことにな

り、シオニストが手に入れることが可能であることは明確であった。外相ペレスはこのフィセインの決定によつて、ヨルダン・オプションがなくなるわけではないと言明し、PLOとの話し合いはないことを再度強調した。

米帝は、八月九日に国務省スボークスマンの発表で、パレスチナ独立国家にもイスラエルによる西岸の併合にも反対するという立場を再確認している。

八月六日になつてPLOは、バグダッドで緊急の中央評議会を開き、このヨルダンの決定に対する対応策を検討した。そして、中央評議会はこの会議の結論として以下の点を声明した。

第一に、ヨルダンがPLOに何の相談も通知もなくこの政策をとったことを非難した。第二に、パレスチナ人民とその土地のアイデンティティを強調するために、PLOがそれに見合つた責任を負つてゐることを再確認した。第三に、パレスチナ人民とヨルダン人民の特別な関係を再確認した。第四に、執行委員会に対して、ヨルダンの決定に対する具体的な政策を検討することを勧告した。第五に、執行委員会に対し、緊急

以上のよう^に緊急中央評議会は、ヨルダンの決定に何らの明確な対応を決定することはできず、その決定を執行委員会に預けた。執行委員会は、法律の専門家からなる法政治委員会を設置し、パレスチナ独立国家の法的な根拠の検討に入った。
同時に、シオニストは、七月三日に東エルサレムのアラブ研究センターのファイサル・フセインを行政拘留した。その際「パレスチナ独立宣言文書」なるものを発見したとして、八月六日にファイサルを行政拘留からシオニストの国家を転覆しようとしている犯罪者としての拘留に切り替えるとともに、この文書をイスラエルのテレビなどで報道した。

この文書の出所はいまだ不明ではあるが、内容的には、基本的に一九四七年の国連総会の決議一八一号すなわち、国連パレスチナ分割案に基づいて、国家を形成し、イスラエルを承認し、平和交渉に入ることを表明している。また、被占領地の人民委員会を国家機関として発展させることが規定され、被占領地に民族

評議会をつくることが規定される。しかも、この構成員となるべき人物のリストまでがシオニストによってしまっていった。

シャミル、ペレスの双方が、この文書を承認できないものとして否定している。

一方、ヨルダンは、西岸の主権放棄にともなった措置を一方的にとりはじめた。ヨルダン国営通信社の発表によると、八月四日に西岸のヨルダン政府の被雇用人三五〇〇人を解雇し、教師など一六〇〇人への補助金を停止することを決定し、宗教局と法務局のみを残して、他の出先機関の解散を決定した。

この措置は、被占領地の主権者としてのパレスチナ人民に、早急の態度決定を迫るものであつた。

PLOのアラファト議長は、八月九日、クウェートでPLOが「亡命政府について検討中であると初めて明らかにした。また、「パレスチナ独立宣言文書」は、個人的見解であつて、PLOの見解ではないと否定した。また、これまで亡命政府に反対

つさい承認しない立場にある。シオニストはヨルダンの決定以降、パレスチナ国家の基礎となる人民委員会の解体にその目標を置いて弾圧の強化を行ってきた。

とくに、人民委員会のメンバーの追放を行い、八月一日に八人、一六日には四人追放し、さらに二五人を追放すると発表し、二五人がさらに追放されれば蜂起が始まつてから五七人を追放されたことになる。これには米帝もあわててシオニストを非難し、追放をやめるように警告した。シオニストは特別の場合のみと弁解し、米帝の警告以降、五人の追放は行われていない。

また、シオニストは八月一四日にガザ全土を封鎖し、外出禁止令を敷いた。これは、テルアビブでの二人のパレスチナ人労働者が放火によつて焼き殺され、ひとりが負傷する、という事件に対する抗議として、ガザ、西岸での抗議行動が行われ、シオニスト軍との激しい衝突があつたあとに敷かれた。前日にはガザで四人のパレスチナ人が射殺され、西岸のジェニン難民キャンプでもひとりが射殺されている。次の日もガザでは二十五人がシオニスト兵によつて撃たれ、負傷している。パレスチナ

側もシオニストのバンに火炎弾を投げ入れ六人を負傷させた。これがシオニストによる外出禁止令の口実とされた。

八月一六日には、ネゲブ砂漠のアンサール三収容所で、シオニストに対する拘留者の鬭いが行われ、シオニストは拘留者三人を射殺した。さらには、八月二五日にはシオニスト占領当局は、パレスチナ労働組合センターの閉鎖を行つた。その後、西岸に使われているという口実で行つてゐる。

シオニスト内部ではシオニスト、とりわけ、被占領地のセツラーが、蜂起のより強硬な弾圧と、セツラーにシオニスト兵と同等の発砲の権限を与え、また、投石に対しても発砲を許可するよう要求していた。しかし、火炎弾を投げられたセツラーガ、あやまつて、シオニスト兵を撃ち、二人を負傷させる事件が起こり、労働党はシャミルが西岸を「ワイルド・ウエスト」に変えようとし、革命勢力への攻撃も強め、サイダの郊外にあるPLOの被占領地むけの「パレスチナの声」放送局を爆撃によって破壊した。

また、社会的には九月からの新学期にそなえて、教育面でのシオニストの攻撃に対する反対して、教育の防衛、学生の勉学の権利の保証などの点に注意が払われている。

また、シオニスト軍はガザの人委員会のネットワークを破壊したと発表した。

このあらたな根こそぎの弾圧方法は、他のキャンプや村、町にも適用されている。

また、南部レバノンのパレスチナ革命勢力への攻撃も強め、サイダの蜂起民族統一指導部は、蜂起の強化と人民委員会の強化、拡大、さらに、攻撃部隊の拡大を呼びかけている。裏切り者への攻撃、また、シオニスト軍へのゲリラ攻撃が強化され

を示そうとしていること。この企みを失敗させる必要がある。もう一つは、ヨルダンの決定は蜂起の全面的な勝利として、亡命政府の樹立とイスラエルとの話し合いに進むべきとの考え方である。第三の見解としては、この決定を混沌に導くものとしてとらえ、PLOがヨルダンに代わって、西岸の行政を行うことはできないと考えており、ヨルダンとのあらたな協力関係をつくるべきとの考え方である。

第一の見解をPFLPが代表しており、第二の見解はDFLP、パレスチナ共産党が代表し、アラファト議長などのフタハもこの見解であると言えるだろう。第三は、PLO内のヨルダン派である。この見解の相違がパレスチナ独立国家の綱領に対する見解の相違となり、どのような政府を樹立すべきかをめぐつて一致できていない。

この論議は、つくられるべき政府がPLOから独立したものにするか、それ

がPLOの機関とするか、また、それ

を早急に決定し、政府の樹立を宣

言するべきか、また、急ぐべきでは

ないのかなどとして一致していな

い。また、これはイスラエルの承認

の問題とも結びついている。

これらがPNCの開催の日取りを決められない根拠となっている。

被占領地の蜂起民族統一指導部は、アピール二四号で、ヨルダンの決定に対しての立場を明らかにしている。

ヨルダンの決定によつて被占領地が

空白になつたという見解に對して、

パレスチナ人民とPLOの存在があ

り、空白ないと宣言している。ま

た、PNCの開催とそこで政治綱

領の決定を要求しているが、亡命政

権等の政府問題への言及はさけてい

る。また、解決の基本として国際和

平会議を再確認し、イスラエルとの

個別交渉を否定している。しかし、

被占領地ではイスラム原理主義の勢

力であるハマスが民族統一指導部と

PLOに対する反対派として登場し

ており、被占領地での蜂起での統一

が乱れはじめている。

これらに對して、リビアの指導者

のカダフィ大佐が、パレスチナ革命

勢力の仲介を行い和解を試みてい

が、成功していない。九月一日のリ

ビア革命記念日にパレスチナ革命の

全勢力の指導者が参加したが、カダ

フィ大佐が提案したアラファトとジ

ブリルの会談は、ジブリルの拒否で

成立せず、その後行われたりビアの

トリポリでの全党派の会議にアラフ

ハ、PFLP、DFLP、パレスチ

ナ共産党、アラブ解放戦線などを、

九月一〇日にPLO執行委員会を開

催し、国際和平会議まで、国連によ

否した。結局PLOとPLO外のパ

レスチナ勢力の一致は失敗した。

この会議で一致した党派は「アラ

フ、PFLP、DFLP、パレスチ

ナ共産党、アラブ解放戦線などを、

九月一三日にはフランスのストラス

ブルグのヨーロッパ議会に出席し、

ヨーロッパからの支持を取り付けよ

うとしている。アルク・カドウミ

政治部長は、ニコシアの非同盟外相

に出席し、国連軍による一時的

その効力を持つ。第二に、ヨルダン

法律や規則、決定はパレスチナ立法

当局によって、改正実行されるまで、

その政策によってカバーされていた被

占領地の事務所、部局、公共機関の

公務員は仕事、機能を保証する。第

三に、PLOは既得の権利と彼の地

位を規定する規約に基づいて、ヨル

ダンの決定によつてカバーされてい

う。

これはPLOが初めて公式に西岸

党派会議では、第一に、蜂起を勝利

まで支持していくこと、第二に、個

人的プランやイスラエルの承認の拒

否、第三に、国際和平会議での解決

を一致点にしようとしたが、ジブリ

ルは国際和平会議での解決に反対し、

アブ・ムサはすべての点について拒

否した。結局PLOとPLO外のパ

レスチナ勢力の一致は失敗した。

この会議で一致した党派は「アラ

フ、PFLP、DFLP、パレスチ

ナ共産党、アラブ解放戦線などを、

九月一三日にはフランスのストラス

ブルグのヨーロッパ議会に出席し、

ヨーロッパからの支持を取り付けよ

うとしている。アルク・カドウミ

政治部長は、ニコシアの非同盟外相

に出席し、国連軍による一時的

その効力を持つ。第二に、ヨルダン

法律や規則、決定はパレスチナ立法

当局によって、改正実行されるまで、

その政策によってカバーされていた被

占領地の事務所、部局、公共機関の

公務員は仕事、機能を保証する。第

三に、PLOは既得の権利と彼の地

位を規定する規約に基づいて、ヨル

ダンの決定によつてカバーされてい

う。

これはPLOが初めて公式に西岸

党派会議では、第一に、蜂起を勝利

まで支持していくこと、第二に、個

人的プランやイスラエルの承認の拒

否、第三に、国際和平会議での解決

を一致点にしようとしたが、ジブリ

ルは国際和平会議での解決に反対し、

アブ・ムサはすべての点について拒

否した。結局PLOとPLO外のパ

レスチナ勢力の一致は失敗した。

この会議で一致した党派は「アラ

フ、PFLP、DFLP、パレスチ

ナ共産党、アラブ解放戦線などを、

九月一三日にはフランスのストラス

ブルグのヨーロッパ議会に出席し、

ヨーロッパからの支持を取り付けよ

うとしている。アルク・カドウミ

政治部長は、ニコシアの非同盟外相

に出席し、国連軍による一時的

その効力を持つ。第二に、ヨルダン

法律や規則、決定はパレスチナ立法

当局によって、改正実行されるまで、

その政策によってカバーされていた被

占領地の事務所、部局、公共機関の

公務員は仕事、機能を保証する。第

三に、PLOは既得の権利と彼の地

位を規定する規約に基づいて、ヨル

ダンの決定によつてカバーされてい

う。

これはPLOが初めて公式に西岸

党派会議では、第一に、蜂起を勝利

まで支持していくこと、第二に、個

人的プランやイスラエルの承認の拒

否、第三に、国際和平会議での解決

を一致点にしようとしたが、ジブリ

ルは国際和平会議での解決に反対し、

アブ・ムサはすべての点について拒

否した。結局PLOとPLO外のパ

レスチナ勢力の一致は失敗した。

この会議で一致した党派は「アラ

フ、PFLP、DFLP、パレスチ

ナ共産党、アラブ解放戦線などを、

九月一三日にはフランスのストラス

ブルグのヨーロッパ議会に出席し、

ヨーロッパからの支持を取り付けよ

うとしている。アルク・カドウミ

政治部長は、ニコシアの非同盟外相

に出席し、国連軍による一時的

その効力を持つ。第二に、ヨルダン

法律や規則、決定はパレスチナ立法

当局によって、改正実行されるまで、

その政策によってカバーされていた被

占領地の事務所、部局、公共機関の

公務員は仕事、機能を保証する。第

三に、PLOは既得の権利と彼の地

位を規定する規約に基づいて、ヨル

ダンの決定によつてカバーされてい

う。

これはPLOが初めて公式に西岸

党派会議では、第一に、蜂起を勝利

まで支持していくこと、第二に、個

人的プランやイスラエルの承認の拒

否、第三に、国際和平会議での解決

を一致点にしようとしたが、ジブリ

ルは国際和平会議での解決に反対し、

アブ・ムサはすべての点について拒

否した。結局PLOとPLO外のパ

レスチナ勢力の一致は失敗した。

この会議で一致した党派は「アラ

フ、PFLP、DFLP、パレスチ

ナ共産党、アラブ解放戦線などを、

九月一三日にはフランスのストラス

ブルグのヨーロッパ議会に出席し、

ヨーロッパからの支持を取り付けよ

うとしている。アルク・カドウミ

政治部長は、ニコシアの非同盟外相

に出席し、国連軍による一時的

その効力を持つ。第二に、ヨルダン

法律や規則、決定はパレスチナ立法

当局によって、改正実行されるまで、

その政策によってカバーされていた被

占領地の事務所、部局、公共機関の

公務員は仕事、機能を保証する。第

三に、PLOは既得の権利と彼の地

位を規定する規約に基づいて、ヨル

ダンの決定によつてカバーされてい

う。

これはPLOが初めて公式に西岸

との連邦を明確に否定するものであること、それに対しヨルダンが手を引くことで準備のないPLOに西岸の行政をやらることで、PLOの矛盾を拡大させることにある。PLOがイスラエルとの力関係において失敗し、PLOの側からヨルダンとの関係を求めてくることを待つているのである。実際問題として、公務員の給料の支払いなど、シオニストは、ヨルダンが行うので認めていたが、PLOの名のもとに行われれば、それを口実に阻止することは明確である。また、パレスチナ独立国家としての存在のないことに由る経済、社会、生活上の具体問題が解決されなければならないが、その一つをPLOの名において、シオニストは実行を阻んでくることになる。

いまだ、シオニスト内部でPLOがパレスチナ人民の代表であるといふ事実を承認するものは少数である。

九月一日に、ワシントンでイスラエル外務省の高官アブラハム・タミー

ルが、PLOがパレスチナ人民の代表であるという事実をイスラエルは受け入れるべきであると発言したが、

このような人々は少數である。しかも、この発言ゆえに、彼は外務省を即座に職にされている現実がある。

蜂起自身の問題は、現在の蜂起の持続的な継続から、その闘争の戦略的な発展の方向が明確にしきれていらないことである。蜂起の成果、とりわけ市民不服従運動の成果として、

反共主義をはじめ反動的な侧面をもつており、現在も分裂行動をはじめなど危険な侧面をもっている。

ニストに対する武装闘争を含む闘争を強化することを行おうとしていると言われている。モスレム原理主義者は、さまざまな傾向をもつておらず、

蜂起自身の問題は、現在の蜂起の持続的な継続から、その闘争の戦略的な発展の方向が明確にしきれていらないことである。蜂起の成果、とり

べく、シオニストの「テロリスト」

キャンペーンを打ち破り、人民自身の闘いに焦点をあてるために、被占領地で武装闘争を控えて、火炎瓶を最高とする実力闘争にとどめきった。武装闘争への転化は明確な軍事的戦略と戦術をもつたものとして行わなければ、これまでのパレスチナのゲリラ闘争の限界をこえることはできない。パレスチナ革命の組織もその点については明確なものを持ちえていないと思われる。国際的な防衛の要求は逆に武装闘争を押

し、シオニストは、シオニストの根幹を揺るがすことになっていな。武装闘争への発展の問題も、これまでシオニストの「テロリスト」

に成功したが、いま、シオニスト

の士気を低下させること

に成功したが、いま、シオニスト

シリア側は、レバノンの救済になるような候補でなければ支持しないとし、このジェマイエルのリストに反対した。

この三日間のシリアと米帝の話し合いはもの別れに終わってしまった。ここではつきりしたことは、米帝がこれまでのシリアに対しての妥協的な態度、すなわち、レバノンの政治改革を承認し、シリアとレバノンの特別な関係を承認する立場からの変化が見られたことである。

これに対して、シリア側も対決の立場で臨むことになった。

この会談の結果に対する、レバニーズ・フォーシーズの副司令官パクラドウニは、シリアと米帝の会談は有意に基づく大統領の原則に立つことを明確にした。これはレバニーズ・フォーシーズが承認できる候補者でなければ認められないという立場を表明したことである。また、大統領選挙の治安問題に対しては、選挙を開くための必要なファシリティイの申し入れをしたと語つており、これもレバノン正規軍による治安の維持に反対し、レバニーズ・フォーシーズによる支配の維持を明確にしたと

いうことである。八月九日、ジェン戦線と会談を行い、第一に、キリスト教レバノン人が望まないする最大の保証である。この動きに望みがかかる結果が今週中にあこがれ、エマイエルは、八日のレバノン正規軍の大統領選挙にレバノンを支持したことである。これは、米帝がジエラードの悲惨な結果にならぬとして、同日にジャージー島を襲撃する。ジャージーはこのまま、レバノン正規軍司令官アウンの「渾身の」命令がある。「治安出動する」と警戒体制に入り、大統領選挙が行われた。

イエルはレバノンのなかで、徒内部の団結はいい大統領を阻止する、第二に、米国がわざと語り、その結果になると語った。マイエルの立場を味していた。ジエラードはヤルゼ基地で演説し、シリア軍が展開すると警告した。そ ャと会談してい 日レバニーズ・エリヤーは、軍もレバノン軍を制に入らせた。軍中、(大統領)にかかわらず、う声明をうけて、ベイルートの緊急行うという発表。

セイニ国會議長とラッシ内相はレバニーズ・フォーシズとレバノン軍司令官を選挙をサボタージュしたと非難を行つた。自らボイコットした一七人の反シリア派議員以外は、レバニーズ・フォーシズによつて、武力で出席を阻止され、また、イスラエルの支配している「セキユリティ・ゾーン」のなかにあるジェニンの議員はイスラエルの傀儡の手で出席を阻止された。このレバニーズ・フォーシズの行動に対してレバノン正規軍はなんらの議員の防衛の役割をしてはこの非難を否定し、議員の側からレバノン軍による護衛を拒否したからと言ひ訳を行つてゐる。これは米帝の意向が働いていた。のちに、ラッシ内相が明らかにしたように、駆け合いで米国大使館の外交官が議員に対する電話で議会に行くなど警告を行つてゐた。

すなわち、米帝のジェマイエル、レバニーズ・フォーシズへの支持の結果として大統領選挙が失敗に終わったのである。

これに對してのシリアの出方が注目されてゐたが、八月二三日レバノン

軍をつくることを呼びかけている。この防衛条約、共同軍の提起は、対イスラエルでないことは明確であつた。なぜなら、エジプトはイスラエルと平和条約を結んでおり、対イスラエルは問題とならないからである。これはイラン、それを支持するシリアに向けられたものであることは明確である。現在、イラクは毒ガスをもつて、クルド人ゲリラに対するみな殺し作戦を行つてゐるが、これもイラク＝イラク戦争で、クルド人がイラクの側についたことに対する復讐としてあり、それゆえに、化学兵器を使用した残忍な掃討作戦を行つている。

また、イスラエルもこれは知つており、イラクの力がイスラエルに向けられるものとは考えていない。イスラエル当局者はイラクのイスラエルへの態度は以前よりもソフトなものになるだろうとさえ言つてゐる。

そして、ヨルダンの西岸の放棄の決定である。シリアとの関係においては、第一に、ヨルダンが公式に対イスラエル対峙から抜けたことを意味している。すなわち、シリア一国でのシオニストに対しての対峙を強いることになった。もちろん、非公式には、ヨルダンはすでにイス

ラエルとの共存関係に入っていたが、今回は公式に戦線から離脱した。第二に、パレスチナ革命、とりわけ、PLOがイスラエルとの交渉を急がなければならぬ条件に置くことによって、戦略的均衡が形成されるまで、平和交渉を行うことは無意味とするシリアとの利害の矛盾を拡大させたことである。シリアにとつて、PLOがイスラエルとの交渉に進むことはエジプトのキャンプ・デービッド路線となんら変わらないものである。これもシリアを孤立化させるものになっている。

米帝は、こうした条件の変化のなかで、その態度を変えた。シリアは六月のアマル、ヒズボラーのベイルート郊外の戦闘を契機にこれまでシリアル軍が展開していなかつたベイルート郊外のシーア派地区にシリア軍を展開させ、ヒズボラーを包囲した。シリアは、米帝との合意の実行をこのようない形で行い、米帝が東側に対して、どうするかの態度を見ていた。八月四日からダマスカスを訪問したリチャード・マーフィーは、三日間ダマスカスに滞在し、総計一七時間シリア政府の要人と会談し、内五時間アサド大統領と会談した。この中東歴訪ではレバノン、イスラエル、

ヨルダン、エジプトを歴訪したが、それぞれ一日の滞在で三日間シリアに滞在したのは異例の長さであつた。レバノン自身においては、七月二日にレバノン内相ラッジが、七月二三日から九月二三日までの大統領選挙のための議会と議員に対する治安計画を発表した。この計画は現在のグリーンラインにある議会となつてゐるビラ・マンスールの周囲を治安地帯とし、東西ベイルートと郊外を含む地域にレバノン政府軍を展開し、許可のない民兵はこの地帯に入れないというもの。

しかし、この治安計画は、大統領アミン・ジェマイエルとレバニーズ・フォーシズによつて、即座に反対された。この治安計画は、明確にレバニーズ・フォーシズの民兵の軍事的な支配下にある東ベイルートをレバノン軍のコントロールに置くといふものであり、レバニーズ・フォーシズはレバニーズ・フォーシズとレバノン正規軍と対立させるものとして反対した。アミンは新大統領の指名に至る相互理解以前に、大統領選挙の治安問題を云々するのは問題外であるが、新シリーズのマロン派教徒で

元大統領のフランジエの親戚で、フランジエ派の立場を代表している。これは、シリアの意向を反映したものであった。マロン派キリスト教徒の協議体であるレバノン戦線も同様に治安計画を否定した。

ジェマイエルは、レバニーズ・フレーシズの司令官サミール・ジャジヤと連携して、八月三日マーフィーと会談した日にジャジャと協議して大統領候補を絞ったといわれている。いずれにしても、右派キリスト教徒側の治安計画の拒否は、米帝がシリアとの合意を反古にしていることを明確に意味した。

シリアとマーフィーの会談ではこの問題が取り上げられたと思われる。また、マーフィーがジェマイエルからの大統領候補者リストをシリアに提示したといわれている。このなかで、ジェマイエル側は、フランジエル議員（レバノン北部のシリア軍の支配地域選出の議員）は絶対に受け入れられないと表明し、ミシェル・アル・ホーリー中央銀行総裁、ブトロス・ハーブなど七人のリストを提示したといわれている。

そして、九月一三日に再びマーフィーがダマスカスを訪問し、ハッダム副大統領と会談している。同日、レバニーズ・フォーシズは、レバノンの国防相を誘拐した。

現在までのレバノン大統領選挙をめぐる駆け引きの過程を見てきたが、現在の中東における力関係の変化が直接的に反映していることがわかる。第一にガルフ戦争の停戦の結果、イラクがアラブ政治へ活動を開始し、シリアに対する策動とアラブ反動の共同の強化としてあらわれている。第二に、フセイン国王の西岸の放棄もまた、シリアの孤立化、PLOとの対立の激化としてあらわれている。第三に、米帝はパキスタンのジアの死亡によつて、米帝の忠実な手先を失い、これはアフガニスタンへの変化をもたらすのみならず、中東情勢に対する米帝の影響力の拡大の必要性が出てきていること。これは、またイランの動きとも関連している。最近のイランの動きのなかで、それを示すものとしては、テヘランのエリトリア人民解放戦線の事務所が閉鎖され、エチオピアの大天使館を開設することになつたことがある。ソ連との関係を強化する傾向にあるだろうまた、シリアとの関係も維持し、現

图られている。第四には、シリアがソ連の母港を設置することを認めたことである。

米帝は、いったんシリアに対してもとの位置にもどらせることになつてゐると思われる。

シリアは現在の孤立した状況をソ連との関係強化をもつてこえようとしている。レバノン大統領選挙は、現在の米帝とシリアの話し合いのなかで、レイモン・エッデ、ないしはミカエル・ダヘールに落ち着くことになるだろう。しかし、レバノンの政治改革の問題は現在の力関係のなかでは、問題となりえない。力のない大統領がバランスのなかで、レバノンの中央政府の形態をつくれたとしても、キリスト教右派のレバニーズ・フォーシーズの支配を崩すことはいまだなりえないだろう。イラクの支援を受けたレバニーズ・フォーシーズが反シリア活動を強化することは目に見えている。これに対してもアラファート派の反シリアル勢力であるアラファート派の追い出しをすすめていくことになる

三 情勢の展望

・ イランとの関係では、反レバニーズ組織が入りしていくだろう。反シオニストでのスンニ、シーアをこえた原理も現在のシリアの路線には一致しており、反アラファト派の構成要素としての位置からシリアは支援することになるだろう。

ニストが現在の力関係で、その立場を変えることは、いまだ考えられない状況にあり、一一月の選挙ではリクードの勝利は確実である。蜂起の敵との対峙はいつそう激化することになる。

現在の反アラファト派の潮流やハマスなどのイスラム原理主義者のPLOの現在の方向への反対は、彼らの全土解放が現実的でないという問題もあるが、少なくともそのジレンマを武装闘争の強化によって、突破していくことによつて解決してはいい。しかし、それが感情論ではなくシオニストの支配を食い破つて戦略と戦術に基づいているのか、否かについては疑問がある。現在的に、彼らは被占領地においては、蜂起の統一的な発展よりも分裂主義的傾向を強くもつており、イスラム原理主義の理念ともあわせて、肯定的な役割をしていることになっていない。

また、もう一方で、中東での反帝民族主義国家の主柱であるシリヤと、利害の矛盾は拡大している。これは、現在のPLOの方向が、シリヤにとっては対シオニスト戦線での孤立化を意味し、シリヤの戦略目標である戦略的均衡の形成に対し、対立するものになつてしまつてゐる。

の左派モスレム勢力がベイルートのカールトンホテルで会合を行い、フランスの支持と政治改革を求めて、ゼネストを行うことを決定した。この会議にはアマル、PSPの二大勢力をはじめ、レバノン共産党等の左派モスレム勢力のほとんどが参加し、レバニーズ・フォーシズとジマイエル、アウンを非難し、そしてシユーフの山岳部では、PSPとレバノン軍の砲撃戦が始まるなど、再び内戦へすすんでいくような情勢になつた。

シリアは対決姿勢を強化し、米帝への搔き振りをかけていた。この間米帝は、駐レバノン米代理大使をフランジエのもとに送り、また、帰任する駐シリア米国大使がシリアのハッダム副大統領と会談するなど低いレベルでのコンタクトを続けた。

あらたな情勢の発展として、シリアは八月二七日にソ連の地中海艦隊の訪問を受けた。この艦隊には空母も含まれ、孤立化しているシリアに対するソ連のテコ入れとしてあつたそして、ラタキアを地中海艦隊の母港化することが話しあわれた。シリアは、これまでソ連がシリア国内に基地を置くことを認めたことはなかつたし、シリア自身の独立して立場

明では、母港ではなく食料、燃料の供給の他、若干の修理が行えるようなものであるということであったがまさにこれは母港化に他ならない。これは米帝に対する圧力としての意味をもつてゐる。

また、同時期に、米帝の中東戦略を崩す問題が起こっている。パキスタンのジアウル・ハクの暗殺である。これは、パキスタン軍内部の対立によるものと思われるが、米帝のアフガニスタン政策への影響が出てくる。だけでなく、イランのシャー亡き後の米帝のもつとも忠実な手先を失うることになり、中東政策への影響も生まれている。中東ではイスラエル問題が絡んでいて、アラブ反動においても、米帝とソ連のバランスをとらながら、延命を図らざるえない状況にある。ソ連の中東での影響力の拡大が米帝への脅威として存在している。米帝自身が、中東での影響力の再編を行う必要が出てきた。こうしたなかで、シリアがソ連の母港を本国に置くことを許したことは、米帝の戦略に大きな影響を与える。米帝は、ソ連との関係を強化していたが、クウェートへの最新鋭戦闘機F-14ホーネットの売却の契約を急いで確

結するなどの動きを行つてゐる。これらを背景しながら、九月に入つて、レバノンキリスト教右派勢力の発言が変化してきた。九月二日、レバニーズ・フォーシズのジャヤジルは、フランスが候補を取り止めればエッデ、アウンに反対しないと表明し、八日には副司令官のパクラードウニがアラブ、国際監視団のもとであれば、フランスに反対しないと言明した。

また、米帝は、九月七日に駐レバノン米国大使、ジョン・ケリーを通して、セイニ国会議長に、第一に、米国はシリアの位置に関する見解を変えていないと明し、ガルフ停戦後シリアに圧力をかけているということを否定した。第二に、米国はシリアとのコンタクトをやめていないこと、第三に、九月二三日以前に大統領選挙を行うことの必要性を強調している。

レバノン自身では、ジェマイエルルが、九月二三日までに大統領が決まるところから、首相代行のスレイマン・アル・ホスが現在の内閣を解散せず、現在の内閣で過渡的政府を指名すること、それに反論したことから、ジエマインエレヒモスン閣僚の間でくる

また、マロン派議員二〇人はマロン派の枢機卿ナスラー・スタイルに仲介を委任し、フランジエの大統領選の阻止を図ろうとしていた。シリア側は、九月一〇日にダマスカスで、ハッダム副大統領とアマルのナビハ・ベリ、P.S.Pのジュンブルラット、暗殺されたカラミ首相の弟オマル・カラミ、フランジエの息子ロバート・フランジエ、元レバニーズ・フォーシズ司令官エリ・ホベイカが会議し、九月二三日以降の情勢について討議し、民族軍に各民兵を統合すること、また、彼らの支配地域で、政治、情報、経済、社会委員会を形成して、ホス首相代行の政府を支援していくことを話し合ったと言われている。レバノンの分裂状態に対しても、左派モスレムの独自の統一した政府形成を表明する動きをしてあつた。これもシリア、モスレム左派側の非妥協の姿勢を誇示するものであつた。

九月一二日、フセイニ国会議長は九月二二日にビラ・マンスールでなくグリーンラインの旧国会で、議会を開くことを発表した。また、レバノン軍司令官アウンも議会の防衛を申し出でる。

アラファート派との問題は、レバノン問題も絡んで、関係の修復は難しい状態にますますなっていくだろう。PLOが現在の方で進めば、反アラファート派との完全な決裂と対立にむかうことになる。

一〇月に予定されているPNCはこのような条件のなかで、明確な方向を出すことは難しいし、PNC自身の開催を行うこと自身が現在の情勢のなかではふさわしくないだろう。蜂起の強化発展のなかで、被占領地内の主体自身がパレスチナ人民権力を宣言し、その名のもとにおいて、闘争を発展させることが望ましい方向であろう。現在の国家外交にあわせた政府の構想は、蜂起自身の性格からはずれた各国の力関係のなかに解消される危険性をもっている。また、イスラエルはPLOがパレスチナ解放と民族自決を立場としているかぎり、「テロリスト」の汚名を着せることをやめないだろう。

蜂起の決定的な発展の他に現在の力関係を転化させる道はない。米帝はたしかに、現在の中東情勢のなかで、アラブ反動諸国を米帝のもとにつなぎ止めることができさらに必要になつていて、シオニストとの関係はそれをもこえたものとしてあり、米

ているのか。

パレスチナ政府を考える新しいベイスがある。それは我々が勝利の門口にいることを意味するのではなく、西岸とガザの我が人民の生活を統治する法を見いださなければならない」ということである。このため、バグダッドで開かれた中央評議会の最後の会議で、PLOは、誰が、どう、この空白を埋めるかという問題に答えるため、法政治委員会の設立を決定した。

この問題に答えるためにPLOの指導者・会議が今月末に開かれるだろう。PFLPはある可能性を追求する用意がある。我々の関心は、現在の挑戦に答えることに成功することである。もし、我々が、挑戦に直面しながら、パレスチナ政府の樹立の成功が必要とされていると考えるなら、我々は（それを支持することを）躊躇しない。

もちろん、亡命政権の樹立はヨルダン政権への唯一の答えではない。まもなく、独立したパレスチナ指導者会議で我々は、独立したパレスチナ國家の樹立を容易にする過渡期として当面の国連軍の駐留の問題を討議するだろう。これはPLOの機関で数ヵ月前に採択された。

帝がシオニストとの関係を変えることはないだろうし、民主党のデュカキスが米大統領になれば、その政策はいつそうシオニストに有利になつていいだろう。

資料①

ヨルダンの西岸放棄とパレスチナ独立国家

八月八日、PFLP書記長ジョルジュ・ハバンヌがダマスカスで記者会見を行った。以下はジャーナリストの質問に対する答えである。

① ヨルダンの決定と亡命政権に対するPFLPの立場

——これらの政策は歓迎されている。実際それらは蜂起の積極的な結果であり、勝利であると我々は考える。

蜂起は、ヨルダン・オプションを破棄した。しかし、我々はこのようないくつかを考えてはならない。ヨルダン政権の狙いは、蜂起が到達した明白な勝利を本当に認めることだろう。

パレスチナ人の大義、革命、PL

我々のアラブおよび国際的友人は、PLOはパレスチナ人民の唯一合法的代表である。もし、政府ができたら、それはPLOの機関の一つになるだろう。

私は、国連軍の駐留を要求する。そして、国連の存在は、国際会議の問題と関連して、存在するだろう。この問題について、PFLPの答えは、もはや十分ではない。パレスチナ指導者の答えが要求されている。

この空白を埋めるためのメカニズムの目標を達成するためのPFLPの答えは、PLOの諸機関から、統一してある。パレスチナ民族政府が唯一の可能性ではない、他にもある。そのようなステップをとるために、パレスチナ人の民族的権利を支持しているアラブと国際的勢力との討議を必要としていることを確認したい。

② パレスチナ民族亡命政権はPLOに取つて代わるのか

——前者に関して、アルジェリアで同盟諸国の反応をどのように期待するか

——前者に於けるアラブと非アラブの権利を私は全面的にもつていて、非同盟諸国に於ける、我々は、この問題に関するPLOの動きを受け入れなければならぬ。PLOが決定することへの全面的支持をPLOは当面、それ相応の当面のプログラムによって、存続する。

●「パレスチナ独立宣言文書」

イスラエル・テレビが報道した主要素は以下である。

一、エルサレムで、パレスチナ国家樹立の宣言がなされる。同國の領土としては、現被占領地に、イスラエル内領土（たとえばイスラエル北部）を要求する。

二、パレスチナ国家の元首は、現PLO議長のアラファト、外相には、現PLOの对外関係局長のカドゥミが就任する。

三、ジョルジュ・ハバヌ、ナイフ・ハワトメなどの組織の指導者は、閣僚に就任する。

四、パレスチナ国家は、イスラエルを承認し、平和交渉を開始する。

五、その交渉には、被占領地内外のパレスチナ人が出席し、最終的国境の確定、西岸、ガザの将来の結びつき、イスラエルとの最終的な関係を、水資源の評定を土台に、明確に規定する。

アラファート派との問題は、レバノン問題も絡んで、関係の修復は難しい状態にますますなっていくだろう。PLOが現在の方で進めば、反アラファート派との完全な決裂と対立にむかうことになる。

このように予定されているPNCはこのような条件のなかで、明確な方向を出すことは難しいし、PNC自身の開催を行うこと自身が現在の情勢のなかではふさわしくないだろう。蜂起の強化発展のなかで、被占領地内の主体自身がパレスチナ人民権力を宣言し、その名のもとにおいて、闘争を発展させることが望ましい方向であろう。現在の国家外交にあわせた政府の構想は、蜂起自身の性格からはずれた各国の力関係のなかに解消される危険性をもっている。また、イスラエルはPLOがパレスチナ解放と民族自決を立場としているかぎり、「テロリスト」の汚名を着せることをやめないだろう。

蜂起の決定的な発展の他に現在の力関係を転化させる道はない。米帝はたしかに、現在の中東情勢のなかで、アラブ反動諸国を米帝のもとにつなぎ止めることができさらに必要になつていて、シオニストとの関係はそれをもこえたものとしてあり、米

帝がシオニストとの関係を変えることはないだろうし、民主党のデュカキスが米大統領になれば、その政策はいつそうシオニストに有利になつていいだろう。

資料②

ヨルダンの西岸放棄とパレスチナ独立国家

八月八日、PFLP書記長ジョルジュ・ハバンヌがダマスカスで記者会見を行った。以下はジャーナリストの質問に対する答えである。

① ヨルダンの決定と亡命政権に対するPFLPの立場

——これらの政策は歓迎されている。実際それらは蜂起の積極的な結果であり、勝利であると我々は考える。

蜂起は、ヨルダン・オプションを破棄した。しかし、我々はこのようないくつかを考えてはならない。ヨルダン政権の狙いは、蜂起が到達した明白な勝利を本当に認めることだろう。

パレスチナ人の大義、革命、PL

独立したパレスチナ国家という蜂起の目標を基礎に、PLOがこの挑戦を受け入れ、それに応えるべき必要を受けるべきステップをすすめることを要求している。祖国のパレスチナ政策をとるヨルダン政権の狙いは何蜂起は、ヨルダン・オプションを破棄した。しかし、我々はこのようないくつかを考えてはならない。ヨルダン政権の狙いは、蜂起が到達した明白な勝利を本当に認めることだろう。

パレスチナ人の大義、革命、PL

独立したパレスチナ国家という蜂起の目標を基礎に、PLOがこの挑戦を受け入れ、それに応えるべき必要を受けるべきステップをすすめることを要求している。祖国のパレスチナ政策をとるヨルダン政権の狙いは何蜂起は、ヨルダン・オプションを破棄した。しかし、我々はこのようないくつかを考えてはならない。ヨルダン政権の狙いは、蜂起が到達した明白な勝利を本当に認めることだろう。

パレスチナ人の大義、革命、PL

独立したパレスチナ国家という蜂起の目標を基礎に、PLOがこの挑戦を受け入れ、それに応えるべき必要を受けるべきステップをすすめることを要求している。祖国のパレスチナ政策をとるヨルダン政権の狙いは何蜂起は、ヨルダン・オプションを破棄した。しかし、我々はこのようないくつかを考えてはならない。ヨルダン政権の狙いは、蜂起が到達した明白な勝利を本当に認めることだろう。

パレスチナ人の大義、革命、PL

七、被占領地内の地下の人民委員会が完全な政府機関に発展する。

八、パレスチナ人はイスラエルが発行している身分証のかわりに、PLO発行の身分証を所持する。

九、報道関係者を含む非パレスチナ人は、被占領地の通過に際して、査証取得を義務づけられる。

●ヨルダン・西岸関係年表

一九四八年五月——英國軍がパレスチナから撤退。ヨルダンのアラブ軍は東エルサレム、西岸へのイスラエル軍の展開を拒否。数千人のパレスチナ難民をヨルダンが吸収。

一九五〇年四月——ヨルダン川两岸をハシミテ王国のもとに統一するとヨルダンが宣言。

一九五一年七月——エルサレムのアルアクサ・モスクの階段で、ヨルダン国王アブダッラー（現フセイン国王祖父）が暗殺された。

一九六七年六月——六月戦争でイスラエルがエルサレム、西岸を占領し、三〇万人以上のパレスチナ人難民がヨルダンに避難した。

一九七二年九月——パレスチナ人が

蜂起民族統一指導部のアピールの抄訳である。

●アピール二〇号

「エルサレムの呼びかけ」

蜂起民族統一指導部は、蜂起の当面の目標である以下の点を呼びかけ、再確認する。

第一に、国連の実践として、パレスチナ人の利益の防衛のために、国際監視団を送ること。第二に、国的な監視のもとに市長選挙を行うこと。第三に、住民が集中している地域からのシオニスト古墳軍の撤退。第四に、拘留者を釈放すること。収容所を閉鎖すること。第五に追放を停止すること。第六に人権を尊重すること。

一、蜂起民族統一指導部は仲間の釈放をかちとるための学生の闘争の必要性を確認する。そして、学生の人権組織の強化を呼びかける。同時に、学生大衆が教育の防衛のために働くことを継続すること、また、統一指

導部の決定に従うことを確認する。

蜂起民族統一指導部は、大学と單科大学の責任者に学究生活を組織することを呼びかける。また、アラブ諸国と世界の教育機関に拘留されているパレスチナ人学生の資格を受け入れるように呼びかける。そして、高等教育評議会にこの呼びかけに従うこと、それを実行することを呼びかける。

二、蜂起民族統一指導部は、シオニストによる攻撃のもとにおかれ、闘争の継続のために税金を支払わない決定に従っている商業者たちに敬意を表する。そして、税金不払い闘争を続ける。そして、蜂起民族統一指導部はガザの人々大衆、とりわけ、シオニスト当局に對して、断固として闘っているブレイジ難民キャンプの人民を称賛する。そして、（村落）評議会の辞任による買収策動や民族主義の名に隠された疑わしい動きについて警告を發する。

三、蜂起民族統一指導部はガザの人々大衆、とりわけ、シオニスト当局に對して、断固として闘っているブレイジ難民キャンプの人民を称賛する。そして、（村落）評議会の辞任による買収策動や民族主義の名に隠された疑わしい動きについて警告を發する。

四、蜂起民族統一指導部は、住宅、居住登録、交通などの部局で働く被雇用者の辞任の呼びかけを再確認する。そして、占領当局との關係を最後的に切ることを呼びかける。

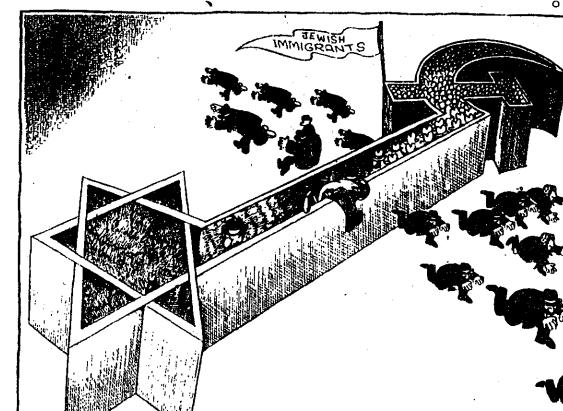
五、蜂起民族統一指導部は、商業者たちに敬意を表する。そして、税金不払い闘争を続ける。そして、蜂起民族統一指導部は、開業医税務署から辞任していないものに對する攻撃を、行うことと要求する。

六、アラブ諸国に對して、アラブ人の蜂起民族統一指導部は、商業者との連帯の行動予定である。

（一）六月二四日は商業者との連帯の日である。商業者へのシオニストの攻撃を非難し、闘う日である。

（二）六月二五日は反人種主義の闘いの日である。これは南アフリカ人民すべての人種主義者に支配されていいる人民との連帯の闘いである。人民に自由を、人種主義者に死を！

（三）六月二六日は人民権力の日である。この日は人民の意志に反するも



-15-

●ヨルダン・西岸関係年表

一九四八年五月——英國軍がパレスチナから撤退。ヨルダンのアラブ軍は東エルサレム、西岸へのイスラエル軍の展開を拒否。数千人のパレスチナ難民をヨルダンが吸収。

一九五〇年四月——ヨルダン川两岸をハシミテ王国のもとに統一するとヨルダンが宣言。

一九五一年七月——エルサレムのアルアクサ・モスクの階段で、ヨルダン国王アブダッラー（現フセイン国王祖父）が暗殺された。

一九六七年六月——六月戦争でイスラエルがエルサレム、西岸を占領し、三〇万人以上のパレスチナ人難民がヨルダンに避難した。

一九七二年九月——パレスチナ人が

アラファト議長は、国際和平會議へのヨルダン・パレスチナ代表団として出席、ヨルダン・パレスチナ連邦王國建国に関する合意に調印した（アマン合意）。

一九八六年一月——PLOが国連決議二四二、三三八を拒否しているので（同決議はイスラエルを承認しているので）、フセイン国王は、前年の合意停止を宣言した。

一九八七年一月——総額一三億ドル相当の西岸開発計画をヨルダンは始めた。

一九八七年一月——アンマンのアラブ首脳會議は、パレスチナ問題よ

●ハマースーイスラム抵抗運動について（「ミドル・イースト・レポート」紙より）

このほどハマスという原理派グループが八月一八日に盟約書を西岸、ガザで発表した。主旨は以下である。「パレスチナの土地は、モスレムの再生の日まで、全世代を通じて、イスラムの信託物である。したがって、モスレム一部を分離させたり、放棄したりはできない。何人といえども、そんな権利はない」「ハマスにもっとも近い立場にPLOがある。PLOは我々の父であり、兄弟である。……しかし、PLOといえども、また、他

スレム側は、サラデインの旗のもとに戦つてはじめて、侵略軍を撃ち破り、追い返すことができたではないか」「我々ハマスは、一九三〇年代のシオニスト運動に対するモスレムのレジスタンスを闘ったパレスチナ・モスレム同志会の一翼である。……一九六八年、そして、それ以降の数々の作戦を行ってきたモスレム同志会の一翼である……」「パレスチナ隣接のアラブ諸国に對して、ムジハヘディーン（聖戦の戦士）に国境を開けるように呼びかける」。

テレビは、同評議会のメンバーの候補者リストを当局が押収していると報道している）。

七、被占領地内の地下の人民委員会が完全な政府機関に発展する。

八、パレスチナ人はイスラエルが発行している身分証のかわりに、PLO発行の身分証を所持する。

九、報道関係者を含む非パレスチナ人は、被占領地の通過に際して、査証取得を義務づけられる。

東岸から出撃していたパレスチナ・ゲリラをヨルダン軍が掃討した（ブルック・セブテンバー）。

一九七二年三月——フセイン国王、ヨルダン川東西两岸にアラブ統一王国（アンマンが東岸の、エルサレムが西岸の首都）建国を提案。ほとんどのアラブ諸国が反対した。

一九七四年一〇月——ラバトのアラブ首脳會議で、PLOをパレスチナ人の唯一合法の代表としてフセイン国王が認められた。

一九八八年六月——アルジェでのアラブ首脳會議で、フセイン国王は西岸に對する野心は持っていない、どんな中東和平交渉にもPLOの代行をする意図はないと意志を表明した。

一九八八年七月——これ以上ヨルダンの動機に疑惑を招かぬよう西岸開発計画を中止するとヨルダンは発表した。

一九八八年六月——アルジェでのアラブ首脳會議で、フセイン国王は西岸に對する野心は持っていない、どう部を放棄することだからである」「パレスチナ問題解決の唯一の方法は、ジハド（聖戦）である。我々ハマスは、世界シオニズムに対する闘争の先兵である。……あの一二世紀に、十字軍が聖地侵略を行ったとき、モスレム側は、サラデインの旗のもとに戦つてはじめて、侵略軍を撃ち破り、追い返すことができたではないか」「我々ハマスは、一九三〇年代のシオニスト運動に対するモスレムのレジスタンスを闘ったパレスチナ・モスレム同志会の一翼である。……一九六八年、そして、それ以降の数々の作戦を行ってきたモスレム同志会の一翼である……」「パレスチナ隣接のアラブ諸国に對して、ムジハヘディーン（聖戦の戦士）に国境を開けるように呼びかける」。

の組織個人を問わず、イスラムの信託物としてのパレスチナの土地を分割する権利はない」「パレスチナ問題の解決という題目でなされる提案、割する権利はない」「パレスチナ問題は、我々の原則と対立する。なぜなら、パレスチナの一部を放棄すると言ふことは、我々の宗教の一部を放棄することだからである」「パレスチナ問題解決の唯一の方法は、ジハド（聖戦）である。我々ハマスは、世界シオニズムに対する闘争の先兵である。……あの一二世紀に、

ある。人民はシオニストによって家を破壊され、家を失った人々との連帯の日である。

(七)七月一日はパレスチナ民族文化の展示会、セミナーを行い、民族文化の防衛のために動員を行え。

(八)七月二日はアシュカロン刑務所の攻撃の十八周年の日である。すべての囚人との連帯の日である。

(九)七月三日は民族的保健の日である。医療保健委員会は活動を開始しなければならない。

(一〇)七月四日は人民委員会の建設と強化の日である。人民委員会と攻撃部隊をより多く組織せよ。また、この日は備蓄と人民教育のための日である。

(一一)七月五日はゼネストの日である。すべての役所の仕事をボイコットせよ。学校は学校名をパレスチナの名前に変えること。

さらに、占領軍とセツラーを攻撃せよ。攻撃部隊を増大せよ。人民の闘いの武器をより使え。

一九八八年六月二一日
P L O 蜂起民族統一指導部

●アピール二一号
「アルニアクサの呼びかけ」

エネルギー問題を解決せよ。すべての雇用者はゼネストの期間中の賃金を支払うという呼びかけに従え。組合は経営者と民族的利益のための合意を行え、そして、賃上げに合意せよ。

四、民族商品の生産を発展させよ。ものは口座を閉じよ。

三、シオニストの銀行に口座をもつて書け。攻撃部隊はシオニストの商品を売るものをすべて攻撃せよ。

二、占領軍の税金を支払うな。

四、民族商品の生産を発展させよ。

五、占領当局のナブロス、ベツレヘム、ガザでの部族問題(宗教対立)を煽り民族的団結を破壊する企てに警戒せよ。我々はこの企てに共同するものと闘う。

六、P L O と民族統一指導部のイメージを傷つけようとする宗教的、民族的に装った裏切り者に警戒せよ。

七、シオニストの機関から辞任した蜂起民族統一指導部は以下のことを呼びかける。

八、シオニストや通信社の特派員を装ったシオニストの諜報機関の手先に警戒すること。シオニストによる流言蜚語に警戒すること。

九、ジェリコとアルニアクサの人民の闘争を称賛する。パレスチナの統一を破壊するためのシオニストの流言蜚語に警戒すること。

一〇、シオニストの經濟に打撃を与えるためにシオニストの觀光センターに対するボイコットを行うこと。

一一、アイダ・アドハに際して、蜂起民族統一指導部は商店に対して、土曜日と金曜日に朝から午後七時まで店を開けること、祝日は二時まで開店することを呼びかける。

蜂起に焦点をあてた特別のアドハの祝日として祝うこと。

一二、確認してきたように、蜂起民族統一指導部は、会社、工場に対し、全力をあげて生産を行うことを呼びかける。

三四、シオニストの攻撃部隊の破壊することの決定に従っている我が人民を称賛する。また、ガザ、西岸でのシオニストによるサービス、仕事を受け入れないように呼びかける。

五、我々は政府病院、その医者、被雇用者の占領当局のパレスチナ人民に援助を与えるなどという命令を拒否したこと。

六、政府部局の労働者は保健局を除いて、ゼネストの呼びかけに従うべきである。

七、税金の支払いと対決せよ。税金の支払いと対決したベイト・サボーの経験を模範とせよ。

(二) 金曜日と日曜日をシオニストの

蜂起民族統一指導部は以下のこととを呼びかける。

一、シオニストの商品のボイコットを強化せよ。パレスチナの市場に輸出されるのをストップせよ。パレスチナ報道機関はパレスチナの商品について書け。攻撃部隊はシオニストの商品を売るものをすべて攻撃せよ。

二、占領軍の税金を支払うな。

三、シオニストの銀行に口座をもつて書け。攻撃部隊はシオニストの商品を売るものをすべて攻撃せよ。

四、民族商品の生産を発展させよ。

五、占領当局のナブロス、ベツレヘム、ガザでの部族問題(宗教対立)を煽り民族的団結を破壊する企てに警戒せよ。我々はこの企てに共同するものと闘う。

六、P L O と民族統一指導部のイメージを傷つけようとする宗教的、民族的に装った裏切り者に警戒せよ。

七、シオニストの機関から辞任した蜂起民族統一指導部は以下のことを呼びかける。

八、シオニストや通信社の特派員を装ったシオニストの諜報機関の手先に警戒すること。シオニストによる流言蜚語に警戒すること。

九、ジェリコとアルニアクサの人民の闘争を称賛する。パレスチナの統一を破壊するためのシオニストの流言蜚語に警戒すること。

一〇、シオニストの經濟に打撃を与えるためにシオニストの觀光センターに対するボイコットを行うこと。

一一、アイダ・アドハに際して、蜂起民族統一指導部は商店に対して、土曜日と金曜日に朝から午後七時まで店を開けること、祝日は二時まで開店することを呼びかける。

蜂起に焦点をあてた特別のアドハの祝日として祝うこと。

一二、確認してきたように、蜂起民族統一指導部は、以下のこととを確認する。

一、辞任しないもの、シオニストの商品を販売するものは裏切り者であることを確認する。また、シオニストのセツルメントでの労働のボイコット、税金の不払いを確認する。

二、シオニストの刑務所の拘留者、墓参に行き、花とパレスチナの旗を供えよ。殉教者、拘留者の家族を訪問せよ。

三、蜂起民族統一指導部は、ナミビア、南アフリカ、チリ人民の闘争に敬意を表明する。世界の平和を愛する人々にネルソン・マンデラ氏の自由のための行動を呼びかける。

四、シオニスト軍に對決しているエルサレムの人民を称賛する。彼らに、あらゆるものを武器としてアルニアクサ・モスクの地区を掘り起こすシオニストの行動を止めさせることを証明せよ。

五、シオニストの壁にかかれたストーリーを消せ、パレスチナの旗をおろせという命令に従わないことを示すための抗議行動を行うこと。税金、ベイト・フォーリク村の家の破壊と対決すること。

六、特權を人々に与えることによつて、パレスチナの團結を破壊しようとするシオニストの企てを警戒すること。

七、シオニストとの貿易合意の延長を受け入れなかつた欧州共同体に感謝する。

八、民族統一指導部は、シオニストによる大学の閉鎖、学校の閉鎖は、シオニストが教育を受けたパレスチナ人民をつくり出さないようにしている実践であることを確認する。

我々は人民教育の発展を強化しな

ある。人民はシオニストによって家を破壊され、家を失った人々との連帯の日である。

(七)七月一日はパレスチナ民族文化の展示会、セミナーを行い、民族文化の防衛のために動員を行え。

(八)七月二日はアシュカロン刑務所の攻撃の十八周年の日である。すべての囚人との連帯の日である。

(九)七月三日は民族的保健の日である。医療保健委員会は活動を開始しなければならない。

(一〇)七月四日は人民委員会の建設と強化の日である。人民委員会と攻撃部隊をより多く組織せよ。また、この日は備蓄と人民教育のための日である。

(一一)七月五日はゼネストの日である。すべての役所の仕事をボイコットせよ。学校は学校名をパレスチナの名前に変えること。

さらに、占領軍とセツラーを攻撃せよ。攻撃部隊を増大せよ。人民の名前に変えること。

七、シオニストの機関から辞任した蜂起民族統一指導部は以下のことを呼びかける。

一、シオニストの商品のボイコットを強化せよ。パレスチナの市場に輸出されるのをストップせよ。パレスチナ報道機関はパレスチナの商品について書け。攻撃部隊はシオニストの商品を売るものをすべて攻撃せよ。

二、占領軍の税金を支払うな。

三、シオニストの銀行に口座をもつて書け。攻撃部隊はシオニストの商品を売るものをすべて攻撃せよ。

四、民族商品の生産を発展させよ。

五、占領当局のナブロス、ベツレヘム、ガザでの部族問題(宗教対立)を煽り民族的団結を破壊する企てに警戒せよ。我々はこの企てに共同するものと闘う。

六、P L O と民族統一指導部のイメージを傷つけようとする宗教的、民族的に装った裏切り者に警戒せよ。

七、シオニストの機関から辞任した蜂起民族統一指導部は以下のことを呼びかける。

八、シオニストや通信社の特派員を装ったシオニストの諜報機関の手先に警戒すること。シオニストによる流言蜚語に警戒すること。

九、ジェリコとアルニアクサの人民の闘争を称賛する。パレスチナの統一を破壊するためのシオニストの流言蜚語に警戒すること。

一〇、シオニストの經濟に打撃を与えるためにシオニストの觀光センターに対するボイコットを行うこと。

一一、アイダ・アドハに際して、蜂起民族統一指導部は商店に対して、土曜日と金曜日に朝から午後七時まで店を開けること、祝日は二時まで開店することを呼びかける。

蜂起に焦点をあてた特別のアドハの祝日として祝うこと。

一二、確認してきたように、蜂起民族統一指導部は、以下のこととを確認する。

一、辞任しないもの、シオニストの商品を販売するものは裏切り者であることを確認する。また、シオニストのセツルメントでの労働のボイコット、税金の不払いを確認する。

二、シオニストの刑務所の拘留者、墓参に行き、花とパレスチナの旗を供えよ。殉教者、拘留者の家族を訪問せよ。

三、蜂起民族統一指導部は、ナミビア、南アフリカ、チリ人民の闘争に敬意を表明する。世界の平和を愛する人々にネルソン・マンデラ氏の自由のための行動を呼びかける。

四、シオニスト軍に對決しているエルサレムの人民を称賛する。彼らに、あらゆるものを武器としてアルニアクサ・モスクの地区を掘り起こすシオニストの行動を止めさせることを証明せよ。

五、シオニストの壁にかかれたストーリーを消せ、パレスチナの旗をおろせという命令に従わないことを示すための抗議行動を行うこと。税金、ベイト・フォーリク村の家の破壊と対決すること。

六、特權を人々に与えることによつて、パレスチナの團結を破壊しようとするシオニストの企てを警戒すること。

七、シオニストとの貿易合意の延長を受け入れなかつた欧州共同体に感謝する。

八、民族統一指導部は、シオニストによる大学の閉鎖、学校の閉鎖は、シオニストが教育を受けたパレスチナ人民をつくり出さないようにしている実践であることを確認する。

九、アルニアクサの呼びかけ

一〇、シオニストの機関から辞任した蜂起民族統一指導部は以下のことを呼びかける。

一一、ボイコットと辞任を呼びかけ、パレスチナ人民の生活を組織すること。

一二、ボイコットと辞任を呼びかけ、パレスチナ人民の生活を組織すること。

一三、七月一〇日は蜂起の八ヶ月と蜂起の最初の殉教者の日としてゼネスティンの日である。

一四、七月一二日は共同労働の日である。

一五、七月一四日はアルニアクサ刑務所の闘争の八周年の日である。

一六、七月一六日は学校の閉鎖と学生の逮捕に抗議するデモとセミナーの

蜂起民族統一指導部は以下のことを呼びかける。

一七、七月一八日は、サハラウイ刑務所との連帶のゼネストの日である。

一八、七月一七日と一八日はシオニスト軍とセツラーのインテファダを弱めようとする策動と対決するため闘争をエスカレートさせる日である。

一九、七月一九日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二〇、七月二〇日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二一、七月二一日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二二、七月二二日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二三、七月二三日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二四、七月二四日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二五、七月二五日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二六、七月二六日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二七、七月二七日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二八、七月二八日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二九、七月二九日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。

二九、七月二九日はアルニアクサ・モスクの建設を強めよ。</

(五) 八月三〇日は追放された人々に連帯するゼネストの日である。

(六) 八月三一日はテルアビブでの三人のパレスチナ人労働者を焼き殺しにしたファシスト行為に抗議し、ゼネストを行う日である。

(七) 九月一日は拘留者の釈放と拘留条件に抗議し、国際機関の前で座り込みを行え。

(八) 九月の第一週は人民委員会週間である。大民委員会を発展させ、より多くの人民委員会を形成すること

(九) 金曜日と日曜日は殉教者に祈りを捧げる日である。

一九八八年八月二二日

P L O 蜂起民族統一指導部

レバノン大統領選挙

資料③

● 現存のレバノン議会議員（総計七六人）

(一) マロン派議員（一二二名）
ギリシャカソリック議員（五人）
ギリシャ正教議員（八人）
アルメニア（正教、カソリック）
議員（五人）
少数民族議員（一人）

レバノン大統領選挙

H L C 起民族統一指導部
資料(3)

●大統領候補スレイマン・フランジエの略歴

(六) (七) モスレムスンニ派議員（一七人）
モスレムシーア派議員（二二人）
モスレムドルーズ派議員（二人）
ドルーズ派はカマル・ジュンブニットの暗殺、三人の死亡で四議席を失っている。

一九一〇年六月一五日レバノン北部のズゴルタで生まれた。父は議長兄のハミドは外相をつとめた。このハミドが心臓マヒに見舞われたあと、スレイマンは、実業家から政治家に転身した。

一九七〇年から一九七六年まで、レバノン大統領。七〇年八月九日の選挙では、第三回の投票で、選出された。スレイマンの選出によって議会は混乱したが、ベイルート市内を六〇〇〇人のマラダ軍団（フランジエ族の民兵）が祝砲をうちまくって制圧した。スレイマンのモットーは「私の国は、いつでも正しい」というもので、大統領時代は、それをスローガンにしていた。また、八月一六日に、出馬表明したときも、そのモットーを飾った額を背にしていた。

フランスの政敵はフランスがあまりにもシリアより（アサドとの

大統領候補スレイマン・フランジ 工の略歴

個人的関係も深い）であると非難している。最近のロイターとのインタビューでは「シリア軍の全土展開」を打ち出した。しかし、彼は、シリアの操り人形的存在ではなく、マロン派の「愛國者」である。マロン派の権限縮小には、たとえ相手がシリアであろうと断固反対してきた。

フランジエの評価はさまざまである。右翼は、パレスチナ人がレバノンに国家のなかの国家をつくり、レバノン左派からも退陣要求を突きつけられたときの彼の断固たる態度を評価する。その当時、彼は「自分が退陣するのは、棺桶に入つてのみである」と同答し、任期を全うした。反面、フランジエ大統領の時代は、レバノンの安定、繁栄の時代から、混乱、内戦への転換があつたことから、内戦の責任を問われたりしている。

フランジエは、カタエブ党の民兵によって、一九七八年長男のトニー一家をみな殺されている。このエデン虐殺の直接の指揮をとったのがレバニーズ・フォーシズの現司令官サミール・ジャジヤである。カタエブ、ジェマイエル一家、レバニーズ・フォーシズとの確執は深い。

●八月二三日モスレム左派のカールトン・ホテル会議の声明（要旨）

マラダ軍團の司令官、現内相ラツシ
は娘婿である。
(「ミドル・イースト・レポータ
ー紙」八月一七日)

●八月二三日モスレム左派のカールトン・ホテル会議の声明（要旨）

①民族主義的諸党および諸勢力は大統領選挙以前に、立法、執行的地位、行政、司法、軍の宗派主義的システムと派閥のヘゲモニーのあらゆる形態を清算する政治的機構的改革に基づく、国民的和解を達成することを主張する。民族主義的諸党と諸勢力は、和解の達成の前の大統領選挙を阻止するあらゆる政治的実践的政策をとる。

②民族主義的諸党と諸勢力はジョン・マクエールの新政府の形成に対し、それが明確に派閥的分割主義的次元のものにしかならないことを警告する。もしそのようなステップをとるなら、民族主義的諸党は、この政府が実行力をを持つことを阻止する政治的、物質的政策をとる。

③民族主義的諸党と諸勢力はすべてのアラブ諸国と諸集団に、シオニスト化されたレバノンの孤立主義的政治潮流に対する支援、武器、金、政治的バックアップによるそれらへの

議会に、大学、単科大学開校を要求することを呼びかける。
九、民族統一指導部は、シオニストの蜂起の人民を受け入れるなという命令を受け入れず、蜂起の人民を受け入れているユダヤ人医師に感謝する。また、パレスチナ人民の民族的権利について書いているジャーナリストにも感謝する。
一〇、蜂起民族統一指導部は、進歩的民族的勢力に、問題を一旦置き、対立を停止し、蜂起の利益のために団結することを呼びかける。
一一、蜂起民族統一指導部は、ナブルスのデモの拡大を賞賛する。またガザ、ナブルス、ジェニン、カバティア、ホサーン、カルキリア、ベイト・サホール、エドナ、ベツレヘム、ベイト・ジャラ、トルクルム、アズーン、ジャルズーシ・キャンプ、アマリ、ヘイシャ、ジャバリア、シヤタ、ボルジ・ワカーフアのキャンプ人民の役割を称賛する。そして、人民委員会と攻撃部隊を発展させることを呼びかける。
以下は、日々の行動計画である。
(一) 八月八日はアンサールの拘留者との連帯の日である。
(二) 八月九日は蜂起九ヶ月を期したこと

(三) 八月一〇日は、情報の日である。ゼネストの日である。

ジャーナリストのための蜂起の要請を拡大せよ。

四 八月一日は、人民委員会の日である。

五 八月一七日は、エルサレムの日である。シオニストの破壊に抗議するゼネストの日である。

六 八月二一日は、アルニアクサのシオニスト軍による放火の二〇周年である。この日は大規模なデモの日である。

七 八月二二日はシオニストの商人に対する政策に抗議し、商人と連携する日である。

一九八八年八月五日

P L O 蜂起民族統一指導部

●アピール二四号

「蜂起の殉教者の呼びかけ」

蜂起民族統一指導部は、ヨルダンの西岸の放棄は、蜂起の重要な政治的成果であることを確認する。西岸には空白はない。なぜなら、P L O を唯一合法の代表とする我が人民がいるからである。

蜂起民族統一指導部は、P N C に敬意を表明する。P N C が新たな政綱領を採択し、我が人民の民族的

●アピール一覧

(三) 八月一〇日は、情報の日である。ジヤーナリストのための蜂起の要求を拡大せよ。

(四) 八月一日は、人民委員会の日である。

(五) 八月一七日は、エルサレムの日である。シオニストの破壊に抗議するゼネストの日である。

(六) 八月二一日は、アルニアクサのシオニスト軍による放火の二〇周年である。この日は大規模なデモの日である。

(七) 八月二二日はシオニストの商人に対する政策に抗議し、商人と連携する日である。

認する。

(三) 八月一〇日は、情報の日である。ジャーナリストのための蜂起の要求を拡大せよ。

(四) 八月一一日は、人民委員会の日である。

(五) 八月一七日は、エルサレムの日である。シオニストの破壊に抗議するゼネストの日である。

(六) 八月二一日は、アルニアクサの日である。シオニスト軍による放火の二〇周年である。この日は大規模なデモの日である。

(七) 八月二二日はシオニストの商人に対する政策に抗議し、商人と連携する日である。

権利への国際的支持を勝ちとることができるのを確信している。

政治面では PLO 中央評議会の PLO が他の当事者と対等の立場で参加する国際和平会議をとおして合法的に解決するという決定を、PLO としての我が人民の立場として確認する。そして、以下の点について確認する。

一、人民教育

蜂起民族統一指導部はすべての教師、学生に、八月一日に開始したシオニストの学校閉鎖の政策を失敗させたための人民教育のキャンペーンを成功させることを呼びかける。人民教育は民族的責任であることを確

が蜂起のプログラムとの協調して前進している積極的なイニシアチブを

(七) 八月二二日はシオニストの商人である。

(八) 八月二一日は、アルニアクサのシオニスト軍による放火の二〇周年である。この日は大規模なデモの日である。

(九) 八月一七日は、エルサレムの日である。シオニストの破壊に抗議するゼネストの日である。

(十) 八月一日は、人民委員会の日である。

(十一) 八月一日は、情報の日である。ジャーナリストのための蜂起の要求を拡大せよ。

権利への国際的支持を勝ちとることができるのを確信している。

政治面では PLO 中央評議会の PLO が他の当事者と対等の立場で参加する国際和平会議をとおして合法的に解決するという決定を、PLO としての我が人民の立場として確認する。そして、以下の点について確認する。

一、人民教育

蜂起民族統一指導部はすべての教師、学生に、八月一日に開始したシオニストの学校閉鎖の政策を失敗させたための人民教育のキャンペー

入することを確認する。また、露庄商がこの呼びかけに従うことを確認する。

四、より多くの農業生産を

蜂起民族統一指導部は、人民大衆にすべての地域でそら豆などの豆類を食料備蓄のために生産する農業改革を行うことを呼びかける。

五、治療費について

我々は私立病院に現在の困難な状況を考慮し、診察料を引き下げるよ

うに呼びかける。

六、積極的なイニシアチブ

民族統一指導部は民族人民委員会

● ヨルダン西岸切り離し宣言／アラブ研究センター一年間閉鎖。

八月一日（月）
・ シオニスト、八人をレバノンに追放した。

八月三日（水）
・ 米国務次官マ王フィー、ベイルート入り。

八月四日（木）
・ マーフィー、ダマス訪問。

八月五日（金）
・ 統一指導部アピール二三号を出した。

八月六日（土）
・ フセイン国王は被占領地省を廃止した／イスラエル・テレビが「独立宣言文書」を公開／PLO中央評議会バグダッドで開かれ、ヨルダンの決定について討議。

八月七日（日）
・ 東ペイロートで、レバニーズ・フォーシーズとレバノン軍衝突。一名死亡／フセイン国王記者会見でパレスチナ亡命政府を認める用意ありと語る。

八月八日（月）
・ 米帝は、パレスチナ独立国家にも一方的なイスラエルの併合にも反

アト議長、クウェートで亡命政権について検討中であると発言／テルアビブ近くで三人のパレスチナ人労働者が放火され、一人焼死、のちにもう一人が死亡。

八月九日（火）

- シオニストはレバノン南部のパレスチナ・ゲリラの基地を爆撃し、PLOの被占領地向けのラジオ局を破壊した。二人死亡、五人負傷。

八月一〇日（水）

- 総司令部派、反乱派は亡命政府に反対を表明。

八月一一日（木）

- PLOの代表団アンマン入り。ヨルダン政府との話し合いのためアラファト議長トリボリ入り／アルジェリア、PNCの開催地になることに合意。

八月一二日（金）

- アマルとヒズボラー衝突。一人死亡。

八月一四日（日）

- ガザでテルアビブの焼死に抗議して衝突。シオニストは一名射殺、三人を負傷させた。シオニストは、火炎瓶をバンに投げ入れられ、六人負傷。そのあとガザ全土を封鎖した／ヨルダンはいくつかのサ

八月一五日（月）

- 西岸では二人のパレスチナ人が殺された／PLO代表団カイロ訪問語った／国會議長フセイニ、大統領選出のための議会を八月一八日に開くと公式に発表した。

八月一六日（火）

- アンサール收容所で拘留者闘争。二拘留者を射殺／フランジエ出馬表明する。西ベイルートで爆弾事件があつた。

八月一七日（水）

- シオニスト四人をレバノンに追放さらに二五人追放すると発表／屠殺者シャロンはイスラエル法を西岸、ガザに適用するためにリクリードから閣議に承認を求めるところ／エルサレムの日のゼネストを行つた／パキスタンのジアウル・ハク大統領が飛行機の爆発と墜落委員会を非合法化した。

八月二〇日（土）

- 三八人の議員しか集まらず、大統領選挙不成立／シオニストは人民

八月二一日（日）

- ・ハイファでの手榴弾攻撃、ファタハ革命評議会（アブ・ニダル）が責任の発表を行った。

八月二二日（月）

- ・統一指導部はアピール二四号を出した。

八月二三日（火）

八月二五日（木）

- ・PLOが西岸に対する最初の布告を行った／シオニストは西岸の「テロリスト」細胞を逮捕したと発表／カールトン・ホテルで左派モスレムの指導者会議。
- ・レバノンでゼネスト行われた／イスラエルのヘリコプター、海軍艦がサイダのアイネ・ヘルヘキヤンプを砲撃／シオニスト、パレスチナ労働組合センターを閉鎖／クウェート四〇機のF-18 購入取引にサイン。
- ・ソ連の軍艦がラタキアを訪問。

八月二八日（日）

- ・シオニストはチャリティ・ソサエティ連盟を開鎖／ラビンは閣議で外国人労働者をパレスチナ人に代わって使うことを提案／PSPと

阻んでいた敵シオニストに結びついた分割主義者連合の体制に、抗議し、八月二六日金曜日にゼネストをすべての地域のレバノン人が宣言することを訴える。諸党はまた、人民に、この危険な状況に対決するため最大の警戒体制をとることを呼びかけた。

イーブ
イスラム連合運動と人民委員会代
表

重要日誌

一九八八年七月一日
一九八八年七月一日
一九八八年七月一日

七月一一日（月）

西岸のカルキリアで学校閉鎖抗議
デモ。六人負傷。ナブロスでも同
様の衝突。エルサレムでは投石で

七月一二日（火）

イスラエル・米帝地中海で海軍合
同演習。

七月一九日（火）

・イラン、国連決議五九八号の受け入
れを発表／ネルソン・マンデラ氏
の七〇歳の誕生日。

七月二〇日（水）

・シオニストにパレスチナ人二人射
殺される／米国民主党大会でデュ
カキスが大統領に指名される。

七月二一日（木）

・統一指導部アピール二二二号を出す
／西岸で三人死亡、一七人負傷。

- ・エルサレム極右シオニストがパレスチナ人を襲撃。アルニアクサ・モスクに侵入しようとした。シオニストは一五〇〇人の警官を動員して警戒。
- 七月二二日（月）
・ジャバリエでの軍用車に投石。シオニスト六人負傷。
- 七月二六日（火）
・イスラエルが対ミサイル・ミサイルの開発を米と共同して行うと発表／イスラエル領事部代表団訪ソヘ出発／ジェマイエル大統領選挙を開くことを指示。
- 七月二八日（木）
・ヨルダン西岸開発五カ年計画の発表。

重要日誌

アラブ民主党—スハイル・ハマデ
アラブ社会主義同盟—アブデルラ
ヒム・ムラード
ナセライ特・ユニオニスト・運動
—サミール・サッバア
アラブ社会主義者同盟—ナセル主
義者—ムニール・アル・サイヤツ
ド
労働者同盟—ザヘル・アル・ハテ
イーブ
イスラム連合運動と人民委員会代
表

シオニスト兵四人を負傷させた。
七月一三日（水）
・西岸のカルキリアで最も激しい投石。軍用バスに火炎瓶が投げられ、炎上。大量逮捕キャンペーン／エルサレム閉鎖。国會議員が「考古学的遺跡発掘現場」を視察。

エルサレムの衝突で大量逮捕。
七月二三日（金）
四〇〇〇人の海兵隊がハイファに到着／西ベイルートでシリア軍のチエック・ポイント近くで爆弾。七人死亡、五七人負傷。（以降連日の爆弾）

闘。レバノン軍のキリスト教徒部隊戦

八月三日(水)

- セツテ「少炎瓶を投げたものと間違えてイスラエル兵を撃ち二人を負傷させた／PLOのハドウジュネーブのパレスチナ問題についての非政府組織の会合で演説／リビア、アラファト議長と反アラファット派の和解に失敗。

九月三日（土）

- P.N.C.は十月第一週にアルジエでトリボリ、全党派会議終わる／シオニスト軍東エルサレムのアル＝ファジルの事務所を襲い、ハテム・アーバデル・カデールを逮捕。

九月五日

- ・ナブルスのナジャ大学友人協会が
学生を援助していくことで閉鎖／
労働党選挙キャンペーン開始。
九月六日（火）
シオニスト軍、カルキリアを急襲
封鎖し、家宅捜査、逮捕行つた。
二〇〇人以上のパレスチナ人が逮
捕された／フセイニ国会議長、米
大使ジョン・ケリーと会談／レー
ガン、イスラエルとエジプトの外
相を今月遅くに招くと発表／シャ
ミル、選挙キャンペーン開始。

れています。

● 国内から流れてくるニュースはソ

編集後記

- 連軍に被占領地の管理とパレスチナ人の防衛を行うよう呼びかけた
九月一〇日(土)
・ダマスカスで、レバノン左派モスク
レム代表で九月二三日以降の情勢について検討。

九月一〇日(土)

- レム代表で九月二三日以降の情勢について検討。

編集後記

- ナ人の防衛を行うよう呼びかけた
九月一〇日(土)
・ダマスカスで、レバノン左派モフ
レム代表で九月二三日以降の情勢
について検討。

言論に対するファシストの攻撃が始まります。

お詫びと訂正

前号（37号）一六ページ4段めの
1行の、九月は、九日の誤りでした。
お詫びし訂正させていただきます。

●レバノンでは、例のイタリアの化
学廃棄物を右翼が金で、レバノンの化
海岸に捨てさせたため、海岸が汚染され
され、今年の夏はレバノン人の最も安上
がりな娯楽の一つがなくなりました。
した。工業国が自国で廃棄すると問
題になるものを世界中に、とりわけ
第三世界の腐敗した分子を金で釣っ
て、国土を破壊させる行為に怒りを
感じます。なかに核廃棄物まで含ま
れているという噂がありました。

帝国主義は、自らの贅沢の汚物ま
でも第三世界にまき散らしています
これはイタリアだけではなくすべて
の帝国主義が行っていることです。

★一〇月二四日東京地裁の法廷で、冒頭陳述を終つた丸岡戦士は、傍聴席をふり返り、ガツツポーズをとつた★同時刻に共同通信はベイルートからの報道として、J R AはP L Oが進めていたイスラエル占領地へのパレスチナ独立国家構想への支持を決定するが、これでパレスチナ闘争が終るわけではなく、今後も武闘が強化されると伝える。山容峨々として厳し。

●来月はPNCが開かれ、パレスチナ革命も正念場を迎えます。いまほ

ど国際的な支持が必要なときはあります。日本政府も前回宇野訪問で、パレスチナ独立国家の支持を表明していました。いまこそ、日本が実行に移すときです。また、日本政府が口先だけであつたのかどうかが試されるでしょう。日本の人民の連帯は、蜂起への戦闘的な連帯の強化とともに、日本政府がパレスチナ独立国家の建設への具体的な支援を行うことを